小学生と街並み、大阪・富田林市

早春の雨は私の肌を刺すほどの冷たさであった。写真は大阪府富田林市の街並みである。ここは永禄年間（一五五八～七〇年）に一向宗の寺内町として、周囲を土塁や堀を巡らした宗教都市であったという。南北約三百五十メートル、東西約四百メートル内は当時のままの古き佳き街並みが色濃く残る。

江戸時代以降は周辺住民と密接な関係を持つようになり、農作物などの集散地として栄えるようになり、木綿商、油屋、酒造業などの商家が栄え、在郷町として発展した。現在も豪商たちの町家が軒を連ねる。街路沿いを歩いてみると、本瓦葺きの屋根に塗籠の豪壮な造りの入母屋、切妻造りの美しい街並みが往時を偲ばせてくれる。一九九七年に重要伝統的建造物群保存地区に指定されるのもうなずける美しさである。地元の小学生たちが、雨の降りしきるなかを街並みの歴史を勉強するために研修授業に訪れていた。色とりどりのこうもり傘が古き街並みと見事にマッチしてすがすがしい。

（写真・文　樋口健二）